

第 121 号

発行日
2024. 3. 8

Super Highway

春闘速報 8

J R 東労組バス関東本部



申3号 第1回団体交渉 要旨①

冒頭、組合より申し入れについての趣旨説明を行う。

会社) 現時点での見解をお話したい。1月末の収支状況は、累計で1億1100万円の黒字。丁度一年前に単月黒字がようやく出た。そして3月・5月と単月黒字が続いた中でようやく単年黒字に手が届くところまでできている。今年は、暖冬で雪による運休もなく何とかいい状況。3月、春輸送を頑張っていきたい。去年は、一か月だけ計画を下回ったがあとは計画を上回った。みなさんの努力に感謝を申し上げたい。

先日、乗務員の勤務改正と55歳基本給制度の改正を含めて、4つの賃金制度を改正していくという提案をしました。いままでコロナで出来なかった社員への必要な改正について、ようやく実施できるようになった。筋肉質な会社を作っていく。

ポストコロナ時代、いわゆる既存収入、これはもう回復しません。対前年は上回るの言うまでは無いが、コロナ前2018年で比較をすると累計だと65%、関連事業をすべて含めても71%、運輸収入でいうと67%、これが100になることは無い。収入が戻らないとなると、コロナ渦前のやり方だと黒字にならない。経費の部分で73%、社員数も減っているがこういった状況の中で黒字という状況になっている。

ポストコロナにおいても基本的な収支状況はこういう形が続く。既存収入にとらわれない、今までの発想にないやりかたで収入を増やしていく。経費を抑えて、みなさんの努力をいただいて単年黒字、24年、25年と黒字を目指していきたい。

皆さんがご苦労している生活の状況、様々な社会状況を勘案して会社も対策していきたい。

J Rバス関東で働く仲間を一つに!